



# 10

2019  
No.151

人と森をつなぐ情報誌



I



II



III

特集

## 都市での木づかい、企業が木づかい





## くまもと自然休養林（熊本県）

### 【概要】

くまもと自然休養林は2つの地区に分けられます。

1つは「金峰山地区」で、熊本市のほぼ全域を見渡すことができる金峰山周辺に位置しています。近くには剣豪宮本武蔵が「五輪の書」をしたためたといわれる「霊巖洞」や文豪夏目漱石の小説「草枕」の舞台となった歩道や「峠の茶屋公園」があり、歴史や文化を楽しむことができます。

もう1つは「菊池水源地区」で、阿蘇外輪山の北西部、阿蘇くじゅう国立公園の一角に位置しています。ここには日本名水百選にも選ばれている豊かな伏流水が流れ、大小様々な瀬や淵、滝が織りなす美しい景観で有名な菊池渓谷があります。

### 【見どころ】

金峰山には複数の登山ルートがあります。ゆるやかな遊歩道のルートは約1時間で山頂まで登ることから親子連れでも気軽に登山を楽しむことができます。脚力に自信がある方は、ぜひ「さるすべり」ルートに挑戦してみましょう。このルートはサルも滑るといわれるほどの急勾配ですが、6合目付近から山頂にかけて、熊本市街をはじめ有明海や雲仙岳、遙かその先には阿蘇山や九州山地、天草の島々をも眺めることができ、歩いた疲れも吹き飛ばすような絶景があなたを待っています。

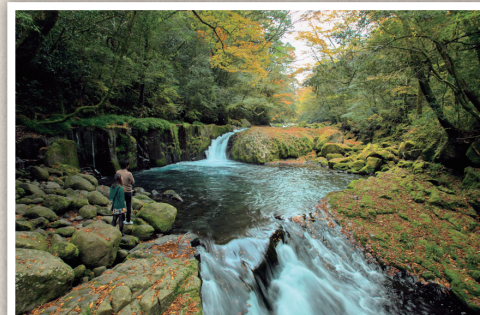
菊池渓谷は「渓谷美の極致」ともいわれ、春は瑞々しく力強い新緑、夏は天然クーラーと称される清流、冬は幻想的な霧氷の花、そしてこの秋には、苔の緑と燃えるような紅葉のコントラストに多くの人々が癒されています。渓谷の入口付近にある落差20mの「掛幕の滝」をはじめとして、撮影スポットとして人気のある「黎明の滝」、日本の滝百選に選定された「四十三万滝」、秋には鮮やかな紅葉のじゅうたんが河原に敷き詰められる「紅葉ヶ瀬」などの変化に富む滝や渓流は、多くの来訪者の心を惹きつけることでしょ

### 【イベント等】

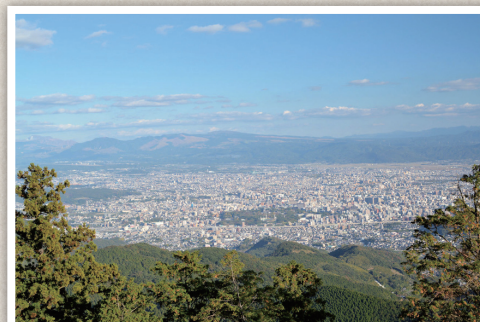
金峰山近くの熊本市森林学習館では、月2回ほど木工体験教室等のイベントを開催しています。イベント詳細については、<http://shinrin-gakushu.net/> をご覧ください。

### 【アクセス等】

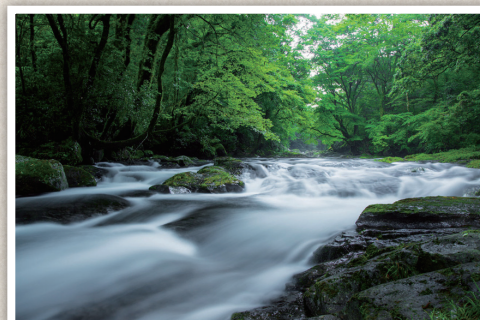
- ・金峰山登山口まで熊本駅から車で約30分
- ・菊池渓谷まで九州自動車道（植木IC）から約50分、阿蘇熊本空港から約60分



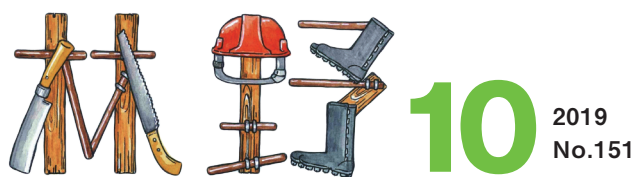
秋の「黎明の滝」



金峰山山頂からの眺望



新緑と菊池渓谷の清流



## Contents

- 03 特集 都市での木づかい、企業が木づかい
- 08 林木遺伝子銀行110番 森町の世界に一つだけの桜／「姫の河内のモッコク」の里帰り
- 10 人材育成の現場から にちなん中国山地林業アカデミー
- 12 TOPICS 01 天皇后両陛下が森林総合研究所林木育種センターを御視察されました
- 13 みどりの女神が行く！
- 14 国有林野事業の取組 平成30年度国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況について
- 19 TOPICS 02 「平成30年木材需給表」の公表について ～木材自給率は8年連続で上昇～

### 表紙の説明

I：スターバックス ムスブ田町2階店（東京都港区） II：TOKIO MARINE Career Development Center（東京都新宿区）  
III：兵庫県林業会館（兵庫県神戸市）

### 【お詫びと訂正】

9月号の特集「木材輸送の近代化を担った森林鉄道」のなかで、図表が見切れている箇所がありました。謹んでお詫び申し上げます。当HPにて、訂正した表を掲載しておりますのでご確認いただければ幸いです。

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kouhou/kouhousitu/jouhoushi/310902.html>







# 都市での木づかい、 企業が木づかい



京都議定書目標達成に貢献するために始まった木づかい運動。木材、特に国産材を上手に伐って使う「木づかい」を広めることが、地球温暖化防止への貢献や、地域活性化、木の持つ調湿作用や香りによるリラックス効果など、環境や社会、私たちの生活により効果をもたらします。

日本の人工林が利用期を迎える中、建築事業者、設計事業者や実際にこれら建築物の施主となる企業が一堂に会した「ウッド・チェンジ・ネットワーク」が立ち上がり、木材利用に関する課題の特定や解決方法などを協議、検討することで民間分野での木材利用を広げていく新たな取組が進んでいます。また、SDGs（持続可能な開発目標）やエシカル（倫理的）消費など、企業や一般消費者に、持続可能な暮らしや社会を営むための行動が求められていることを踏まえつつ、民間企業で働く人々や利用者、持続可能な社会にとって木材が魅力的な材料であることを、都市のオフィスや店舗等で国産材を利用している先進的な施設等を例に紹介します。



## 研修施設「TOKIO MARINE Career Development Center」(東京都新宿区)

コーポレート運用部 不動産グループ グループリーダー 平野 昌史<sup>まさし</sup>さん



弊社は、各地方の「地方創生」の取り組みに貢献し、地方とともに成長することを目指しています。そうした中、木材の持つ優しさや温もりにはリラックス効果があると言われていることから、研修施設に国産木材を利用することで、「リラックスすることで研修効果の向上」と「各地方の林業に貢献」の2点を実現させることを主な狙いとししました。

2019年4月に利用を開始してから半年ほど経ちましたが、同施設を利用した方々から木材利用を評価するコメントが多く寄せられています。中でも、設計事務所との打合せをしっかりと重ねたことで、「木材利用によるリラックス効果」を研修施設の設計プランに反映させたため、当初期待していた「木材利用により研修効果の向上」という結果を得ることができました。

今後は、研修施設利用者の声をさらに収集し、他の分野についても木材利用の可能性を検討していきたいと考えています。また、弊社は林野庁が主催する「ウッド・チェンジ・ネットワーク」にも委員として参加していることから、研修施設利用者の声を林野庁、並びに委員の皆様と共有し、国内の木材利用促進にも貢献していきたいと考えています。







江東区有明西学園

## 事例2 株式会社竹中工務店

### 竹中工務店が手がけた木造中大規模建築物

木造・木質建築推進本部 副部長 小林 道和さん

木質建材の大きなメリットの一つに、「軽さ」が挙げられます。木を使った建材の軽さは、建物を支える基礎工事の簡略化、運搬や組立設置工事の作業性向上から建設コストの合理化を可能にします。また加工のしやすさや「軽さ」に対する材料の強さ、木質バイオマスの燃料や他の建材への再利用などの多くの特長を有しています。建築計画や工事施工、維持メンテナンスから解体までで他の建材にはない強みを発揮します。

中でも、弊社が手がけた兵庫県林業会館（2019年2月に竣工）などで活用した直交集成板CLT（木の板を互い違いに直角に重ねて接着剤で一体化した木のパネル）は、木の美しい表面を活かしたデザイン、高い強度が求められる耐震壁や床への適用、工期短縮などを実現しており、今後の木の建材としての可能性を大いに拡大するものであると考えています。



兵庫県林業会館

建築物の木造化は森林資源の循環を活性化し、さらに企業や各国政府が取り組むSDGsの達成に貢

献します。竹中工務店は、建築物の木造・木質化という手段を通じて、森林資源の循環と持続可能なまちづくりを一体的に実現する森林グランドサイクル®の構築に向けて、木造建築の安全性を高めるための技術開発と社会が求める建築・まちづくりに取り組んでいきたいと考えています。



PARKWOOD 高森（仙台市）





木端材で制作した作品



### 事例3 スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社

#### ムスブ田町2階店

広報部／コンシューマー PR & Local Marketing チーム 大竹 史生<sup>ふみお</sup>さん



内観

この店舗は、東京都港区から【みなとモデル二酸化炭素固定認証制度】をご紹介いただき、その内容に共感したことで港区の協定自治体である秋田県湯沢市のナラ材を使用し設計しました。

本物の木材が持つ豊かな表情は、意匠的にも大変重要です。特に、お客様が直接触れられるテーブル等に木を使うことで、自然の暖かみが感じられる居心地の良い空間でコーヒーをお楽しみいただけるのではないかと考えています。

こうした木材を使用する際に気をつけていることは、<sup>そ</sup>りや割れによる怪我の防止や、コーヒーのシミなどのメンテナンスについてです。ただ、メンテナンスのしやすさだけに目を向けると木の風合いが<sup>そ</sup>損なわれてしまうため、木材の魅力と機能性のバランスを考慮するように心がけています。

私たちが国産木材、特に地元木材を活用する一番の目的は、その土地で育った木材を“使う”そして“知る”ことで、お客様と地域をつなげるきっかけになるのではないかと考えるからです。だからこそ、多様なお客様にご利用いただける場所で、もっと木材が使いやすくなるような制度や事業が増えることに期待しています。

### 非住宅木造推進アプローチブック

#### 「時流をつかめ！企業価値を高める木造建築 ～持続可能な木材利用を経営戦略に取りこもう～」の制作・発行について

農林中央金庫が事務局を務めるウッドソリューション・ネットワークは、事業用建物の建築を検討している施主（経営者）に木造化を提案するアプローチブックとして、「時流をつかめ！企業価値を高める木造建築～持続可能な木材利用を経営戦略に取りこもう～」を制作いたしました。

ウッドソリューション・ネットワークは、林業・木材産業に関連する企業・団体で構成され、木材の生産・加工から建築物等への利用までの各段階における課題解決を通じ、木材利用の拡大を目指して活動しております。

本誌では、これまで木造建築に取り組んだことのない施主の皆様へ、木造建築の意義やメリットをご認識いただくとともに、木造建築に対する不安を払拭いただくことを目的に、木造建築の実例や経営者のインタビュー等を掲載しております。実例ページでは、一般的に取組みやすくなってきた 2,000 ～ 3,000㎡・2 ～ 3 階建て・準耐火建築の事例をご紹介します。本誌は、農林中央金庫ホームページにて閲覧いただけます。





日本チームの活躍で盛り上がりを見せたラグビーワールドカップ2019 日本大会の会場でも国産材は利用されています。

## 岩手県釜石市



メインスタンド



木製仮設シート



木製本設シート



W杯フィジー VS ウルグアイ戦

### 釜石鵜住居復興スタジアム

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の会場となった「釜石鵜住居復興スタジアム」は、岩手県釜石市で発生した大規模林野火災で被害を受けたスギ材を約800m<sup>3</sup> 利用し、三陸の漁場を育む森林資源の豊かさを伝えるとともに、所有林が被災した山林所有者の支援につながっています。

同スタジアムは、「鉄と魚とラグビーのまち」を掲げる釜石市が東日本大震災からの復興のシンボルとして、震災時の津波で被災した釜石市立鵜住居小学校・釜石東中学校の跡地に建設したものです。

スタジアム建設に際して、地元の釜石地方森林組合は当初、釜石市に対して間伐材の利用を提案してきましたが、2017年に市内で413haが焼失する林野火災が発生したことを受けて、被害を受けた50年生前後のスギを活用することになりました。

被害材は皮を剥けば問題なく利用できましたが、当初は黒焦げになった丸太の販売は難航。しかしスタジアムでの活用が決まったことで、地元はもとより東北各地に販路が拡大し、山林所有者の経済的な損失も最小限に食い止めることができました。

常設シート 4990 席（6000 席中）のほか、VIP ルームとして利用される木製ラウンジ 8 棟や仮設シート 6300 席（1 万席中）などに採用され、全部で800m<sup>3</sup> 前後が使用されました。

丸太生産から加工までを担当したのは、釜石市と大槌町、遠野市の木材関係者でつくる「上閉伊地区木材流通協議会」（事務局：釜石地方森林組合）です。復興需要が落ち込むことを見据えて2016年に発足した協議会は、丸太だけでなく製品を地域で生産し販売することを目的とし、スタジアムから半径50km圏内で木材部分の加工を完結することができました。

スギ材のシートは、樹脂製のシートに比べて熱くなりにくく、雨や汗で湿っても乾きやすいのが特徴で、今夏行われた日本代表戦や、ワールドカップ本番の観客にも好評でした。



メインスタジアムなどに設置された使用木材の案内板





## 森町の世界に一つだけの桜

**北** かやべぐんもりまち 北海道茅部郡森町のエゾヤマザクラ(オオヤマザクラ)を紹介します。  
あおばがおかこうえん 森町の青葉ヶ丘公園は、大正3年に開設された歴史ある桜の名所で、珍しい桜や古桜が約1,000本植えられています。一方、アイヌ語で「樹木の多くある所」を意味する「オニウシ」公園では、約500本の桜を楽しむことができます。これらの桜の中で森町にしかない「あおばしだれ青葉枝垂」と「もりこまち森小町」が青葉ヶ丘公園に、「あおばがおかこうえん駒見桜」がオニウシ公園にあります。近年、病気などによる枯損被害が見受けられるようになったため、平成25年度に森町役場から林木育種センター北海道育種場(北海道江別市)に要請があり、「こそん青葉枝垂」、「もりこまち森小町」と「あおばがおかこうえん駒見桜」に加えてオニウシ公園の「おおなでしこ大撫子」について、後継樹をつぎ木で増殖することになりました。

これらの桜は、いずれも老木であったため、穂によるつぎ木の育苗は困難を極めました。いくびょう20本ずつつぎ木を行いました。各々の桜での成功率は50%以下でした。「大撫子」と「青葉枝垂」は、それぞれ8本と6本の後継樹を平成27年度に里帰りさせることができました。また、母樹が枯れかかっていた「駒見桜」は、つぎ木に2度失敗しましたが、3度目の挑戦で2本の後継樹を平成30年度に里帰りさせることができました。一方、「森小町」は、つぎ木増殖が特に困難を極め、母樹が根の病気で枯死したために、増殖が一度は不可能になってしまいました。しかし、茨城県の「結城農場・桜見本園」に「森小町」のクローンが2本あることがわかり、そのうちの1本が森町に移植され再び増殖が可能になりました。そこで、森町からふたたび「森小町」が失われることのないように、北海道育種場で改めてつぎ木を行いました。要請から5年の月日を経て、平成30年度に6本の後継樹が里帰りし、同じ年に開催された植樹祭では、町長自らが植樹を行いました。里帰りしたいずれの桜も、毎年春に行われる桜まつりの主役となるよう大切に育てられています。

北海道には、このほか、歴史のある古木や開拓の記念樹が多数点在しています。いずれも地域の方々に愛され、大切にされてきた樹木です。そのような地域の歴史を刻んできた樹木を後世に残していく取組に参画することは、歴史を後世に語り継いでいく一助になります。



「大撫子」の花



「青葉枝垂」の花



「駒見桜」の花



里帰した「森小町」の後継樹





## 林木遺伝子銀行110番

— 貴重な樹木の苗木の里帰り —

### 「姫の河内のモッコク」の里帰り

**熊** 本県天草市指定文化財の「姫の河内のモッコク」を紹介します。

幹回り4m、樹高約25mあるこのモッコクには、文治元(1185)年、壇の浦の戦いのあと、平家の落人の姫様が姫の河内に逃げのびたものの、病により亡くなってしまい、埋葬された場所に植えられたとされる言い伝えがあります。永く地元の方々に愛されてきたモッコクですが、年々樹勢が弱まる中、幹の根元から4mまで大空洞が入り、枯れるおそれがありました。そのような状況から、平成26年9月、天草市教育委員会から林木育種センター九州育種場(熊本県合志市)に林木遺伝子銀行110番の依頼があり、当场職員が、市職員及び姫の河内のモッコク再生事業樹勢回復委員会等の立会いの下、採穂を行いました。その後、採穂した枝でさし木増殖を実施した結果、無事にクローンの増殖に成功し、今年4月18日、その時には既に枯れていた「姫の河内のモッコク」の原木前でさし木苗の譲渡式が開催されました。

式では、九州育種場長が、二浦町亀浦地区の代表に、さし木苗を譲渡し、「姫の河内のモッコク」は里帰りを果たしました。出席した地元住民からは、「子供の頃からこのモッコクの木に慣れ親しんできたが、このような状況にしていまい申し訳なかった。この林木遺伝子銀行110番で後継樹を増やしていただき報われた」と涙ながらに感謝と激励を受けました。

今後の苗木植樹については、枯損してしまった原木の撤去を行った後、毎年開催される「ひめんと様の祭り」に合わせて来年、姫様の命日である旧暦9月17日に原木跡地へ植樹される予定です。

多くの人たちが待ち望んでいた里帰りです。地域のシンボルという大役を担ってきた原木に代わって、里帰りした苗木がすくすくと大きく育ち、今まで以上に地域の人たちを活気づけてくれることを願ってやみません。

今後も一本の樹木から人々の心に寄り添えるような巨樹・名木の遺伝資源のクローン増殖サービス「林木遺伝子銀行110番」を進めていきます。



枯損した「姫の河内のモッコク」の原木



原木前での記念撮影(平成31年4月18日撮影)





## にちなん中国山地林業アカデミー

ひのぐんにちなんちようたり  
鳥取県日野郡日南町多里

修学期間：1年間 定員：10名



校舎全景

平成29年に「林業成長産業化地域」に選定された本町に、今年4月、実践的な林業現場研修による専門技術の習得と最新の林学・教養の知識を有する林業技術者の育成を目的とした「にちなん中国山地林業アカデミー」が誕生しました。

本校は、指定管理者となった一般財団法人日南町産業振興センターが運営、日南町森林組合、林野庁鳥取森林管理署、鳥取県、鳥取大学、島根大学などと運営協力に関する覚書を締結し、それら産官学14団体から指導者の派遣や実習フィールドの提供をいただき、研修の質的充実を図っています。また、校舎から5kmほどに位置する国内最大級668haの演習林(日南町有林)は、FSC森林認証林でもあり、町が目指す「循環型林業モデル構想」のフィールドとしての活用にも取りかかっています。

修学期間は1年、教育課程は実践訓練期と就業準備期の2段階で、10月までの実践訓練期では、森林計画学、造林学、森林土壌学、森林環境学といった現場で必要となる森林の知識の習得と林業実習、そして、林業従事者として必要となる資格取得講習を、11月から始まる就業準備期では、林業現場を体験するインターンシップを中心とするカリキュラムを策定しています。定員は10名、今年度は10代から40代までの男性6名、女性1名の計7名の学生が、地元鳥取県を始め、岡山、京都、千葉から集まり、本校で学んでいます。

開校時、全国初の町営林業アカデミーということで注目を集めた本校ですが、日南町だけでなく、鳥取県はもとより全国の林業後継者の育成を目指すことと謳ったことでマスコミにも大きく取り上げていただきました。町、県という垣根を取り払い、林業アカデミーが設置されていない地域からの入学者を確保するという狙いもありましたが、一方で、森林環境税を運営費に充当する以上は、全国各地で活躍できる人材を私たちの町から創出していくというグローバルな目的もありました。今後、7名の学生たちは、広大な演習林での充実した実技実習を踏まえ、地域企業等でのインターンシップに臨みます。

本町が目指す循環型林業の実現には、新たな担い手の育成は急務です。これらの担い手には、即戦力としてだけでなく、国の森林・林業政策の動向はもちろんのこと、森林の保全、再生、生物多様性など幅広い視野を持つ能力が求められています。産声をあげたばかりの本校ですが、地域から信頼される林業技術者を養成し、林業の成長産業化に取り組む地域の負託に応えうる人材を輩出していきたいと考えています。





入学式の様子



第1期生



演習林



林業実習（チェーンソー基礎研修）



林業実習（林業機械の基礎）



林業実習（除伐）



林業実習（素材生産現場研修）



資格取得講習（小型林業機械研修）



# 天皇皇后両陛下が 森林総合研究所林木育種センターを 御視察されました



第74回国民体育大会御出席のため茨城県を御訪問された天皇皇后両陛下は、令和元年9月29日、日立市に所在する(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターを初めて御視察されました。

同機構沢田<sup>さわだ</sup>理事長から機構の概要、また、上<sup>かみ</sup>林木育種センター所長からセンターの概要をそれぞれパネルで説明した後、育種素材保存園でエリートツリー(第二世代精英樹)を御覧いただきました。

植栽後7年で、親世代に当たる第一世代精英樹の2倍に成長した状況に、天皇陛下は「成長が大分違いますね。(エリートツリーと精英樹を比較されて)」との御感想を述べられました。また、「エリートツリーは今後<sup>たかはし</sup>どうしていくのですか。」との御質問があり、高橋<sup>たかはし</sup>育種部長から、林業の現場に届けるための普及推進や更なる改良を目指した第三世代開発の取組を説明しました。

皇后陛下からは、「第一世代はどのように選んだのですか。」との御質問があり、昭和30年代当時、林野庁や都道府県等が連携して、全国各地の「山一番の木」を精英樹として選抜した旨を説明しました。

林木ジーンバンク保存施設では、約1万種類の種子を、それぞれに適した温度条件(+2℃から-160℃)で冷蔵・冷凍庫に保存している状況を御覧いただきました。ブナ種子の長期保存に取り組み、成功したことを説明したところ、天皇陛下からは、「どれくらいの期間保存できるのですか。」との御質問があり、生<sup>うぶかた</sup>方遺伝資源部長から、理論的には半永久的に保存が可能で、長期保存した種子を播種すると正常に発芽し苗木になることを説明したところ、両陛下は驚かれた御様子でした。



天皇皇后両陛下を沢田理事長がお出迎え



御熱心に説明を聞かれる両陛下



エリートツリーは植栽後7年で樹高8m[右]  
(対照[左]は樹高4m)

両陛下に御覧いただいたエリートツリー(右)と  
第一世代精英樹(左)



エリートツリー(第二世代精英樹)について説明





▲山形県上山市の横戸市長と。上山市はクアオルトに力を入れています



藤本麗華 (ふじもと れいか)

自然を活用した健康増進の  
資格取得のために山形県へ

8月終わりに9月にかけて、4泊5日、「クアオルト・テラポイント」というガイド資格を取得するため山形県上山市に滞在しました。

クアオルトはドイツ語で「療養地・健康保養地」を意味します。日本では「クアオルト健康ウォーキング」として注目され、簡単に言うと、森林を活用した軽い自然散策を通じて心と体の安らぎを取り戻し、健康増進するものです。

このウォーキングは気候性地形療法という運動療法が基本。

キーワードは2つ、

①自分の体力に合ったスピードでウォーキングをする。頑張りすぎない。

②体表面温度が平均2℃低い程度の「冷たくさらさら」にし効果を上げる。  
大自然を満喫しながら、無理なく免疫力や呼吸器系を強化し、生活リズムの調整、持久力を強化する利点があります。

医師などの講義で、基本的な体の仕組みを学び、ガイドの実践講習では、参加者一人一人の顔を見ながらコミュニケーションをとり、体調の変化を敏感に感じることが一番大切です。何が起きても、的確な判断が出来るように備えることも大切です。

私は普段、ダンス講師として指導にあ



◀ベテランの先生から、参加者の健康を守る意識を学びました



▲アオモリトドマツを植樹しました



▲一日森林管理署長になりました

たっている中で、健康を守りながら運動指導をする考え方を学べたことは大切な財産になりました。

山形滞在では、かみのやま温泉(時代屋さん)にお世話になりました。

丸一日、座学と実習でへとへとになったところに、新鮮野菜を沢山使った大満足なお食事をいただきました。やはり地元食材をつかった食事は旅の一番の楽しみですね。クアオルトを学びながらかみのやま温泉の魅力をつつぷり教えて頂き堪能しました。

長い講習を経て、無事に「クアオルト・テラポイント」の試験に合格したときは本当に嬉しかったです。指導者としてはまだまだこれからですので引き続き勉強頑張ります！そしてクアオルト・テラポイントとして沢山の方に自然の魅力を発信出来る機会を増やしてまいります。

### 蔵王で樹木の害虫被害を視察

山形森林管理署の一日森林管理署長として、アオモリトドマツの移植をしに蔵王の山頂まで行きました。

蔵王の樹氷は有名ですが、その元となるアオモリトドマツが害虫によって枯れて困っていると聞いていました。その光景は想像以上で、山頂の景色一面枯れており、この問題の深刻さに驚きました。

木は植えてもすぐに大きくはなりません。ですが少しずつでも、負けずに枯れないで育ってほしいです。そんな思いを込めて移植しました。

山形県の2つ体験は、私を強くしてくれました。ありがとうございます。ありがとうございました。



# 平成30年度国有林野の管理経営に関する 基本計画の実施状況について

国有林野事業では、国有林野の管理経営に関する基本的な事項を明らかにするため、あらかじめ国民の皆さんの意見を聴いた上で「国有林野の管理経営に関する基本計画」を策定しています。

この計画に基づき国有林野の管理経営を行い、毎年、その前年度における実施状況を公表しています。

この度、平成26年度から令和5年度までを計画期間とする管理経営基本計画の5年目に当たる平成30年度の実施状況を公表したことから、その内容を紹介します。

## 公益重視の

## 管理経営の一層の推進

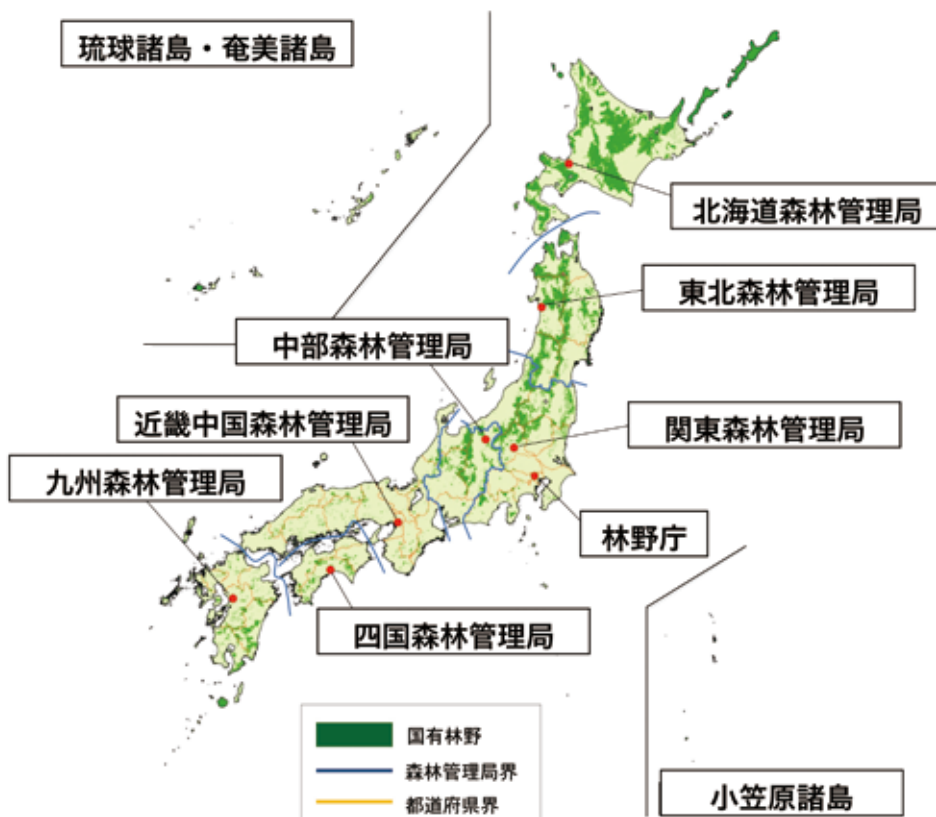


全や水源涵養等の公益的機能の発揮に大きな役割を果たしています【図1】。

## 重視すべき機能に応じた 管理経営の推進

日本の国土の約2割、森林面積の約3割を占める国有林野は、その多くが奥地脊梁山地や水源地域に分布し、国土保

国有林野事業では、公益重視の管理経営を一層推進していくため、国有林野を重視すべき機能に応じて5つのタイプに区分し、適切かつ効率的に管理経営を行っています。



【図1】 国有林野の分布



## 効果的な路網整備の推進

森林の適切な整備・保全、林産物の供給等を効率的に行うため、林道や森林作業道を適切に組み合わせた路網整備を進めつつ、民有林への普及にも取り組んでいます。

また、国有林野と民有林野が近接する地域では、両者が一体となった計画的かつ効果的な路網の整備に努めています。

す。

## 治山事業の実施

安全で安心できる暮らしを確保するため、治山事業による荒廃地の整備や大規模災害からの復旧、保安林の機能の維持・向上に向けた森林整備等を計画的に進めています。

中国・四国地方等に甚大な被害をもた

らした平成30年7月豪雨では、国有林野及び民有林野の被害状況を早期に把握するため、被災した府県と合同でのヘリコプター調査等を行いました。また、「山地災害緊急展開チーム」の派遣や民有林被災地における直轄治山災害関連緊急事業に着手する等早期復旧に取り組んでいます【写真1】【写真2】。

## 地球温暖化防止対策の推進

地球温暖化の原因となる二酸化炭素の吸収・貯蔵機能を確保するため、間伐等の森林整備や積極的な木材利用に取り組んでいます。

平成30年度には、四国森林管理局<sup>（※1）</sup>嶺北森林管理署において国の庁舎整備では初となるCLT<sup>（※1）</sup>パネル工法による庁舎の建替えを実施しました【写真3】。



写真1 山地災害緊急展開チームによる現地測量の様子



写真2 広島県における応急対策の状況



写真3 完成した新庁舎の外観

（※1）

Cross Laminated Timber（直交集成板）の略。

一定の寸法に加工されたひき板を繊維方向が直交するように積層接着した製品。





写真4 無人航空機を利用した架線設置省力化

## 生物多様性の保全

国有林野は、多様な植生を有するなど、我が国全体の生態系ネットワークの根幹として、生物多様性を保全していく上で極めて重要な位置を占めています。

このため、「保護林」や「緑の回廊」を設



写真5 植樹体験授業の様子

定し、モニタリングとその結果を踏まえた保全・管理と柔軟な見直し等を推進しているほか、溪流等と一体となった森林の連続性の確保による森林生態系ネットワークの形成に努め、これらを通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用の推進に取り組んでいます。

## 森林・林業の再生に向けた貢献



我が国の森林・林業の再生に貢献するため、民有林関係者等との連携を構築し

つつ、国有林の組織・技術力・資源を活用し、民有林経営への支援等に積極的に取り組んでいます。

地域における施業集約化の取組を支援するため、九州森林管理局熊本南部森林管理署では、地域の関係者と連携して森林共同施業団地を設定して、地域林業の成長産業化に向けた総合的な取組を実施しています【写真4】。

## 国民の森林としての管理経営



学校等と森林管理署等が協定を結び、様々な自然体験等を進める「遊々の森」の設定・活用など、森林環境教育に係るプログラムの整備やフィールドの提供等に取り組んでいます【写真5】。

また、自ら森林づくりを行いたいという国民の要望に応えるため、ボランティア団体等と森林管理署等が協定を結び、国有林野をフィールドとして森林



図2 無人航空機を活用したシカ捕獲通知システムの模式図

づくりを進める「ふれあいの森」等を設定するとともに、技術指導等の支援を行い、国民参加の森林づくりを進めています。



## 国有林野の維持及び保存



来訪者の集中による植生の荒廃等が懸念される世界自然遺産地域や日本百名山等の森林での巡視等を行っている。

松くい虫被害やナラ枯れ等の森林病害

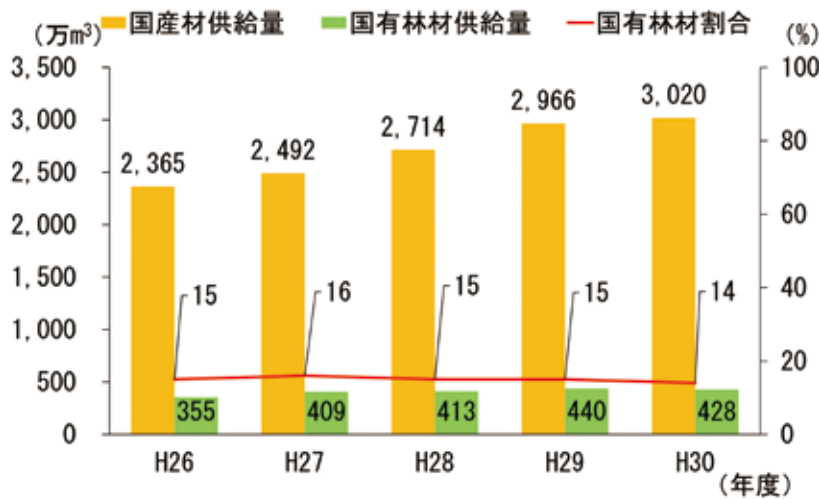


図3 国産材供給量に占める国有林材(丸太換算)の割合

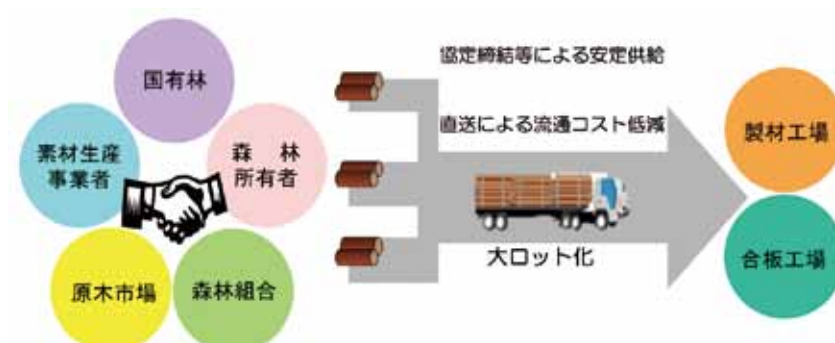


図4 民有林と連携したシステム販売のイメージ

## 国有林野の林産物の供給



重視すべき機能に応じた森林整備の結果得られる木材の持続的・計画的な供給に努めており、平成30年度の国有林材供給量は428万m³(丸太換算)となっています【図2】。



図5 高知県馬路村 千本山風景林(四国森林管理局管内)の動画の一場面

## 国有林野の活用



また、国産材の需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組み集成材・合板工場や製材工場等と協定を締結し、国有林材を安定的に供給する「システム販売」を推進し、国産材の安定供給体制の構築に向けて取り組みました【図4】。

優れた景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した国有林野を「レクリエーションの森」に設定し、地域と連携した情報発信等に取り組んでいます。

また、特に景観等の優れた「レクリエーションの森」を、平成29年に「日本美しい森 お薦め国有林」として93カ所選定し、そのうち4カ所において、無人航空機を活用した動画撮影を行っています。

これらの動画を林野庁のホームページ(※2)等で公開することにより、魅力の発信を一層強化していきます【図5】。



## 国有林野と民有林野の 一体的な整備及び保全



国有林野に隣接介在し、国有林野の公益的機能に悪影響を及ぼすおそれ等のある民有林野について、間伐や外来樹種の駆除等を一体的に実施しています【写真6】。

## 国有林野の事業運営



伐採、造林等の事業の民間委託や、情報システムの活用等に取り組み、効率的な管理経営に努めています。



写真6 民有林所有者との打合せの様子



写真7 平成26年度から平成30年度の間の成長



写真8 CLTを活用して修繕し、再開した関東森林管理局  
磐城森林管理署 草野森林事務所

## その他国有林野の 管理経営



また、適切な森林整備を通じた収穫量の確保やコスト縮減等による計画的かつ効率的な事業実行に努め、平成30年度は166億円の債務返済を行い、これまでの累積返済額は736億円となっています。

東日本大震災からの復旧・復興に向け、地域に密着した国の出先機関として、地域の期待に応えた取組を行っています。

ます。

被災した海岸防災林の再生については、生物多様性の保全にも配慮しながら取り組んでおり、植栽にあたっては、企業やNPO等の協力も得ながら取り組んでいます【写真7】。

また、福島県相双<sup>そうそう</sup>地域のうち避難指示が解除された地域においては、震災発生以降行われていなかった森林整備や木材生産を本格的に再開するとともに、事業量の大幅な増加に対応するため、閉鎖していた森林事務所を再開しました【写真8】。

(※2)

「ドローン空撮映像」はこちらからご覧いただけます。 [http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu\\_rinya/kokumin\\_mori/katuyo/reku/rekumori/190823.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/190823.html)



「平成30年度国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」は、こちらからご覧いただけます。

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu\\_rinya/jissi/jyokyo\\_2018/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/jissi/jyokyo_2018/index.html)





# 「平成30年木材需給表」の公表について ～木材自給率は8年連続で上昇～

林野庁は9月27日に、我が国の木材需給の状況を明らかにする「平成30年木材需給表」を公表しました。平成30年の木材の総需要量は、8,248万 $\text{m}^3$ （丸太換算。以下同じ。）で前年に比べ0.8%増加しました。国内生産量は3,020万 $\text{m}^3$ で前年に比べ1.8%増加（9年連続増加）し、輸入量は5,228万 $\text{m}^3$ で前年に比べ0.2%増加しました。

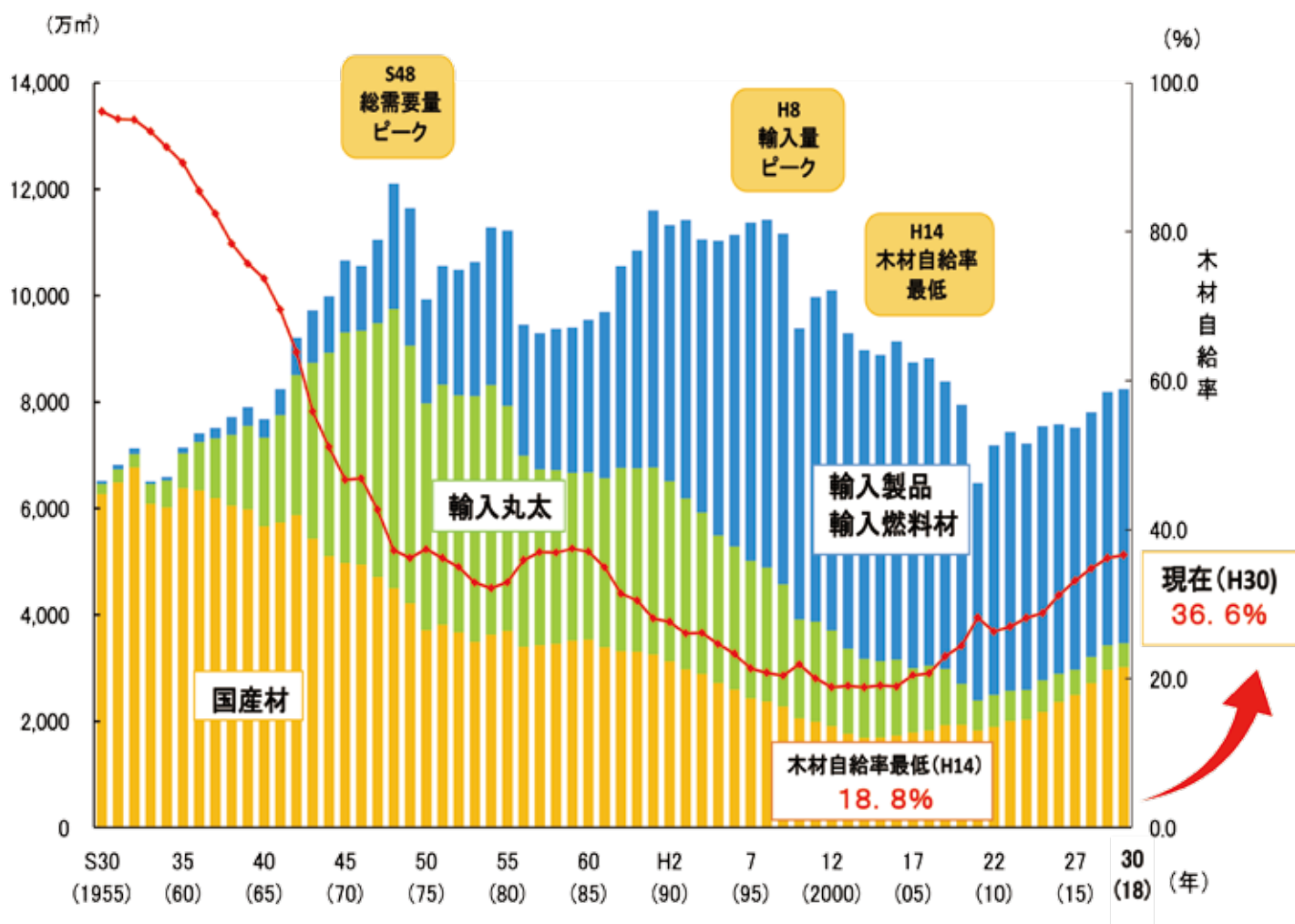
平成30年の製材、合板等の用材の自給率は前年から0.8ポイント上昇して32.4%となり、用材にしいたけ原木及び燃料材を加えた総量の自給率は、前年に比べて0.4ポイント上昇し、36.6%となりました。用材、総量ともに自給率は、平成23年から8年連続で上昇しています。

より詳しい「木材需給表」の内容は下記のURLから御覧になれます。



[http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokuzai\\_zyukyu/index.html](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokuzai_zyukyu/index.html)

## 木材の供給量及び木材自給率の推移





# 森林を守る 森林を活かす

遠く離れた存在にみえる森林と私たちの暮らしは、  
今でもしっかりとつながっています。

「緑の募金」は、身近な地域の森づくりをはじめ、国内外の森づくりや人づくりなどに大切に活用されています。



**緑の募金**

ご協力をお願いします

春の新緑シーズン(1月～5月)と秋の紅葉シーズン(9月～10月)の年2回  
家庭募金、街頭募金、職場募金、企業募金、学校募金などによって行われています。

緑の募金に関するお問い合わせはこちらまで

公益社団法人 国土緑化推進機構 ☎0120-110-381  
ホームページ <http://www.green.or.jp> 電子メールアドレス [bokin@green.or.jp](mailto:bokin@green.or.jp)

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

**リサイクル適性(A)**  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。



本誌に使われている紙は、  
日本の森林を育てるために  
間伐材を積極的に使用しています。



「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索